

吾妻山の火山活動解説資料（平成 25 年 2 月）

仙 台 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いています。
火山性地震は少ない状況で経過しました。地殻変動の状況等にも特段の変化は認められず、ただちに火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
火口内では火山ガスの噴出が引き続きみられますので警戒してください。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1、3、図 4 ①、④）

上野寺（大穴火口の東北東約 14km）に設置してある遠望カメラによる観測では、大穴火口（一切経山南側山腹）からの噴気の高さは 50～100m で経過し、噴気活動はやや活発な状態が続いています。

26 日に陸上自衛隊東北方面総監部の協力により実施した上空からの観測では、前回（2012 年 1 月 18 日）と比較して大穴火口周辺の噴気地熱地帯の高温域¹⁾の状況に特段の変化は認められませんでした。

1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・地震や微動の発生状況（図 4 ②～③、⑤～⑧）

火山性地震は少ない状況で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 5）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。



図 1 吾妻山 大穴火口からの噴気の状況（2 月 28 日 14 時 50 分頃）

- ・福島市上野寺（大穴火口から東北東約 14km）に設置してある遠望の映像です。
- ・実線赤丸で囲んだのが、大穴北西側火口壁の白色噴気で高さは 200m です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 25 年 3 月分）は平成 25 年 4 月 8 日に発表する予定です。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

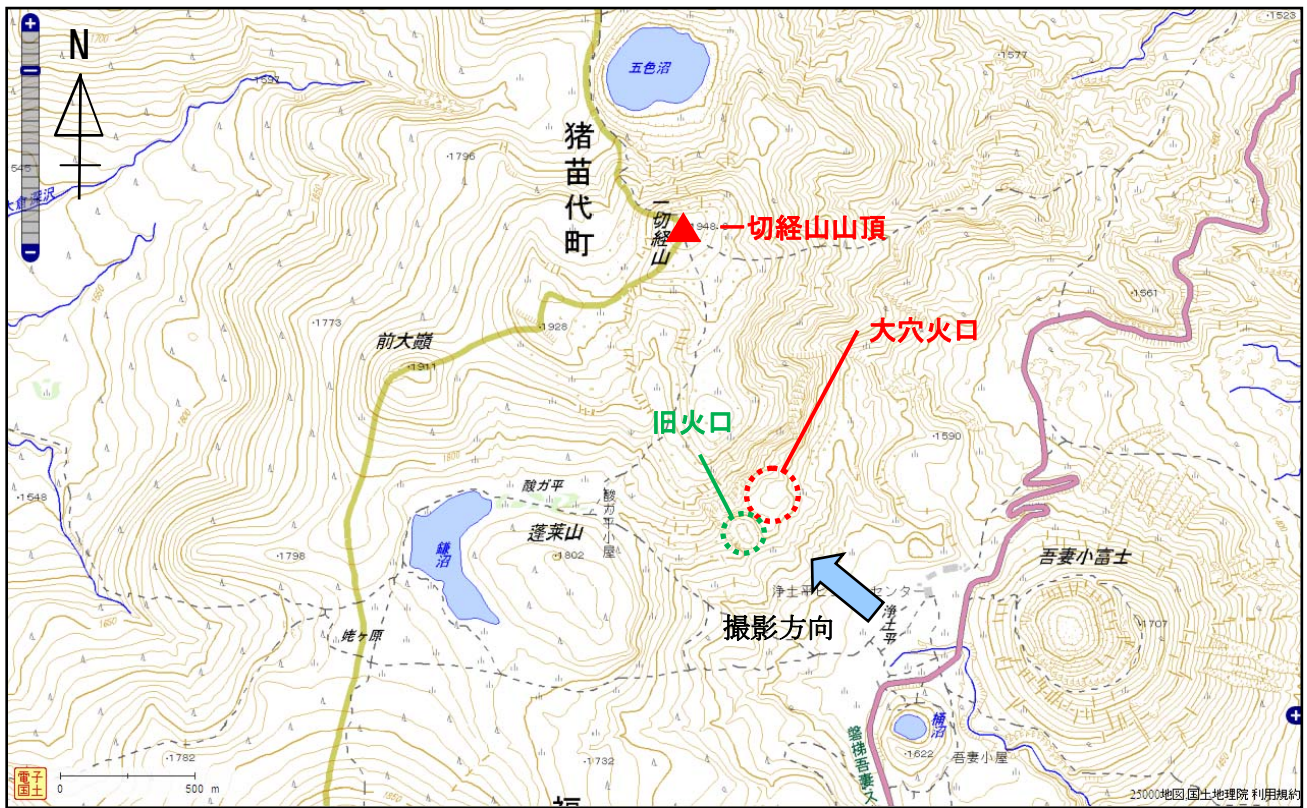


図2 吾妻山 上空からの撮影ポイントと撮影方向

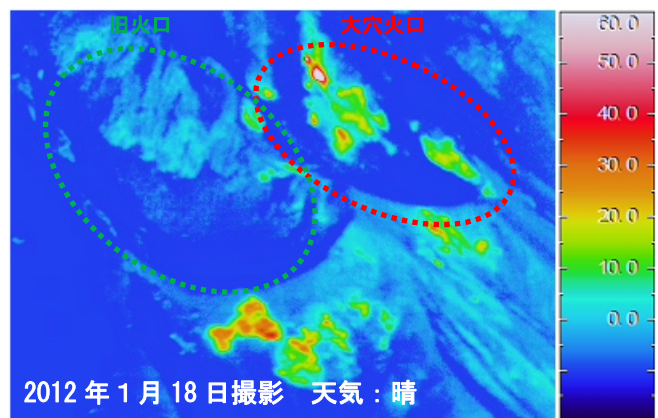
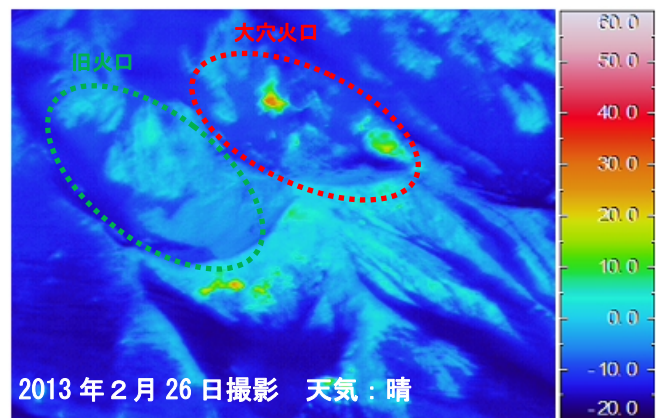
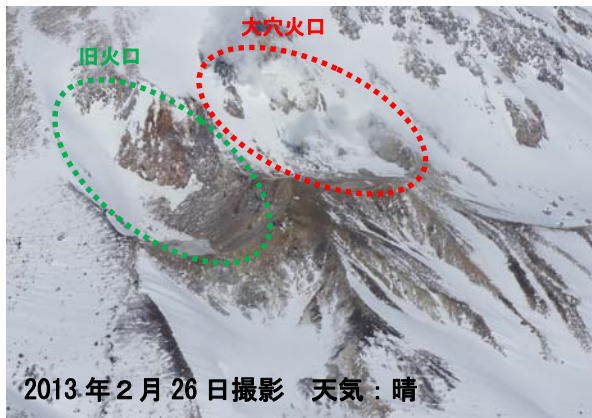


図3 吾妻山 大穴火口周辺の可視画像（左）と地表面温度分布¹⁾（右）

- ・ 上段：2013年2月26日撮影 下段：2012年1月18日撮影
- ・ 大穴火口周辺の高温域に特段の変化は認められませんでした。

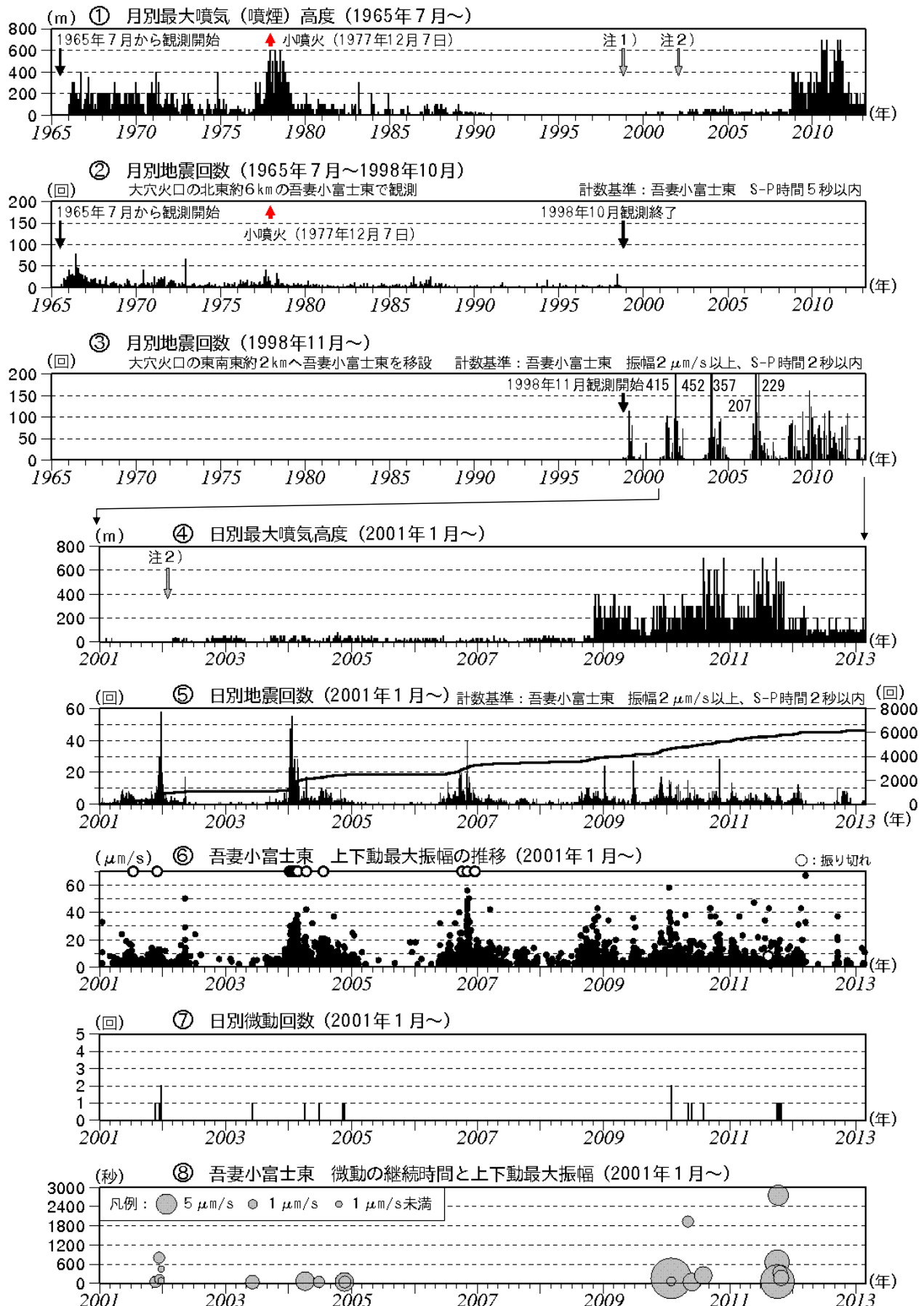


図4 吾妻山 火山活動経過図（1965年7月～2013年2月）

- ・①注1）1998年以前は福島地方気象台（大穴火口の北東約20km）からの目視観測で、1998年からは遠望カメラ（大穴火口の北東約14km）による観測です。
- ・①、④注2）2002年2月以前は定時（09時、15時）及び随時観測による高さ、2002年2月以後は全ての時間で観測したデータによる高さです。

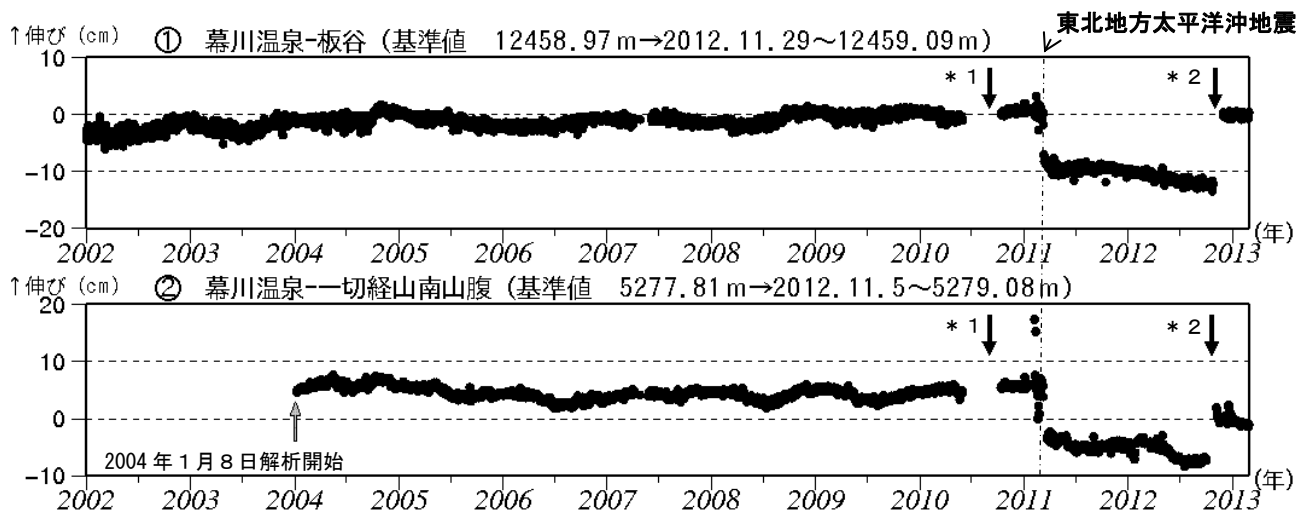


図5 吾妻山 GPS 基線長変化図 (2002年1月～2013年2月)

- ・2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。
- ・①～②は図4のGPS基線①～②に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- *1：幕川温泉観測点の機器を更新しました。
- *2：板谷観測点と一切経山南山腹観測点の機器を更新しました。

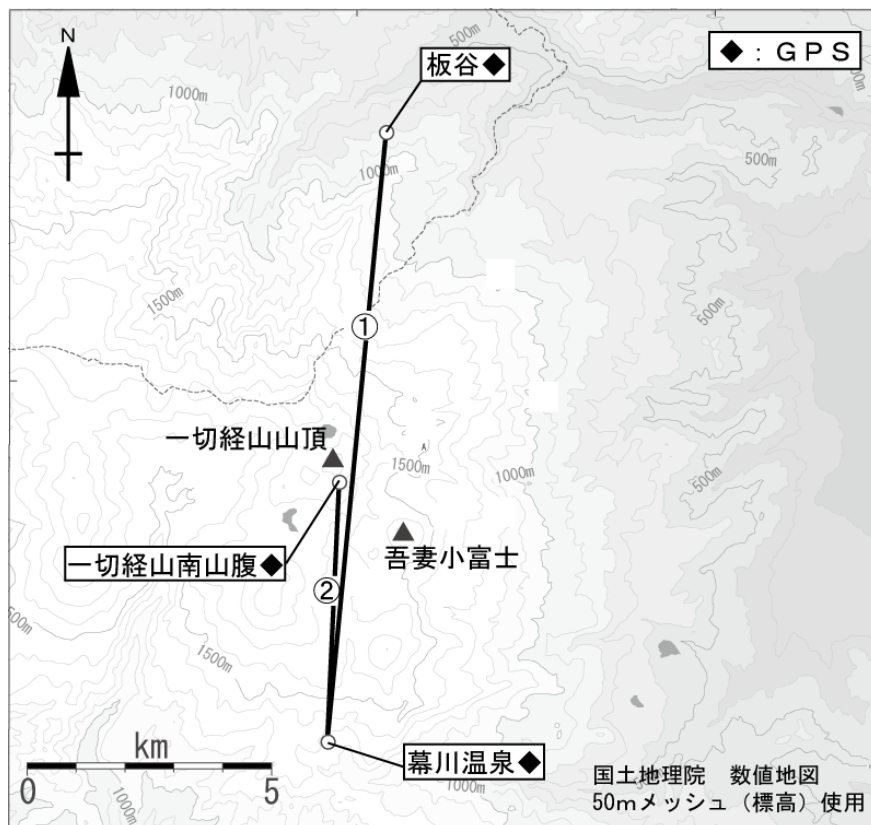


図6 吾妻山 GPS 観測点配置図

- ・小さな白丸 (○) は気象庁の観測点位置を示しています。

